

「広島観光」の可能性— 原爆・戦争・平和を学ぶ旅をどう組み立てるのか



<研究メンバー>

- ・学部生：井上 保奈海、片沼 来夢、趙 子昊、
井上 慶太郎、野上 隆之介
中村 晃大 五十嵐 蓮
- ・大学院生：池内 晋史
- ・指導教員：桐谷 多恵子、今村 康子、巴特尔

発表内容

1. 研究背景と目的
2. 広島ピースツーリズムの現状と課題
3. 広島フィールドワーク
4. アンケート調査と結果分析
5. 広島FWとアンケート調査からの主要な示唆
6. 新しい「広島観光」コンセプト
7. 参考文献

1. 研究背景・問題意識

研究背景

- ロシアによるウクライナ侵攻、米中対立、台湾有事に加え、北朝鮮による核兵器およびミサイル開発、核保有国と非核保有国との分断などから国際情勢が不安定化している。
- 2023年のG7広島サミットではG7として初めて「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」を発出したものの、日本や世界の一部の国では核抑止論を肯定する声もあり、理想と現実の乖離が生じている。
- 核廃絶を望む被爆者や戦争体験者の高齢化に伴い、被爆や戦争の歴史を正しく伝えられる方々が年々減少している中で、核の脅威と危険が迫っており、改めて平和の大切さを考えることが重要であり、このためには原爆・戦争の歴史を正しく後世に伝承していかねばならない。

問題意識

そこで、唯一の戦争被爆国である日本が果たすべき役割、責任とは何か、被爆者なき広島のパースペクティブをどう組み立てるべきなのか。新しい「広島観光」の可能性はあるのか。本研究では、こうした問いに寄り添って、その答えを求めるものである。

1. 研究目的・方法論

研究目的

広島・長崎への原爆投下、および、第二次世界大戦前後の広島の観光と復興の歴史をたどりながら、平和都市を標榜する広島が、世界及び、日本人に対して何を語っているのか、どのようなメッセージを伝えようとしているのかを考察し、被爆者なき時代の到来における「戦争の記憶と平和の継承」を意識し、戦後79年日以降の新しい「広島観光」のあるべき姿を描きたい。

研究方法：

研究方法としては、広島観光を検討するための基礎的情報に関する文献調査と現地調査が中心になる。

2. 広島ピースツーリズムの現状

【広島県の目標】

地域の特色を生かした魅力ある観光地づくりによる新たな経済成長を実現したい。

【目標に対する課題】

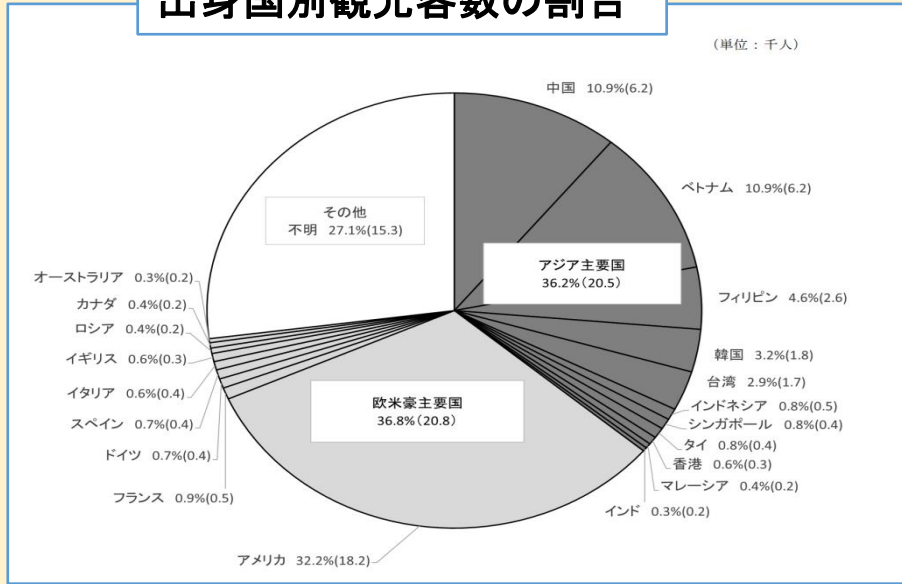
- ・上記目標を達成するための課題は以下の3つである。
- ①原爆ドーム、厳島神社の2つの世界遺産に続く観光資源が育っていない
- ②広島県の政策と広島市の政策とが相乗効果を生み出せていない
- ③原爆資料館等、インバウンド観光客の急増に対応できる受け入れ体制が足りない

【今後の解決策】

- ・広島市が取り組んできたこれまでの平和教育を継承しつつ、県と市の双方が取り組む政策での相乗効果を一層生み出したい。～広島県の担当者へのヒアリング

2. 広島ピースツーリズムの現状（国内外訪問客数の推移）

出身国別観光客数の割合



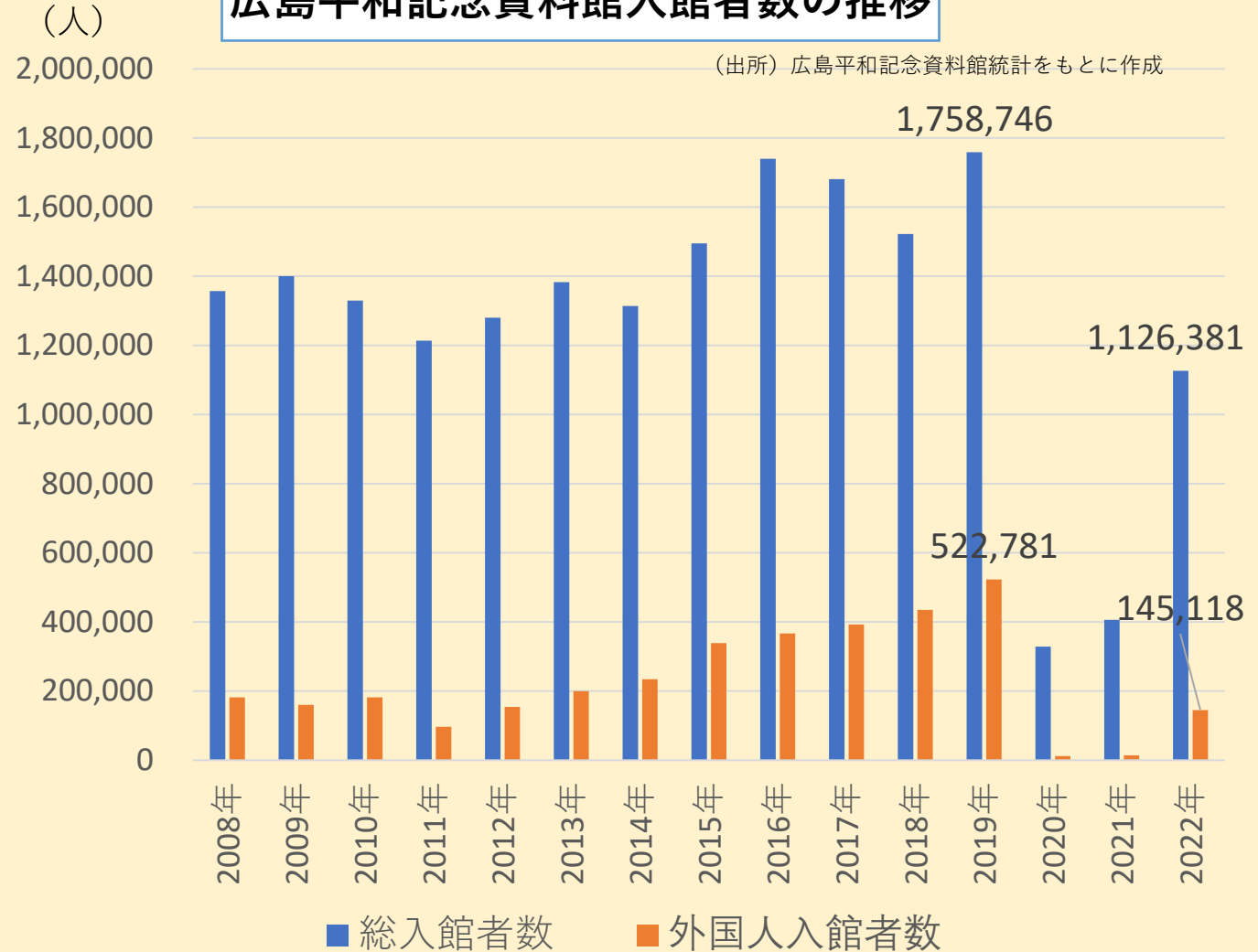
出所：広島県「令和3[2021]年広島県観光客数の動向」

広島市訪問客数の推移

区分	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	前年との比較	
						人数	増減率 (%)
入込観光客	1,336万2千人	1,427万4千人	854万9千人	755万3千人	925万人	169万7千人	22.5%
一般観光客	1,125万4千人	1,209万7千人	825万人	736万6千人	883万7千人	147万1千人	20.0%
修学旅行生等	32万6千人	33万人	9万2千人	16万人	32万3千人	16万3千人	101.9%
外国人観光客	178万2千人	184万7千人	20万7千人	2万7千人	9万人	6万3千人	233.3%

出所：経済観光局観光政策部「令和4年（2022年）広島市観光客数について」、2023年7月1日

広島平和記念資料館入館者数の推移



3. 広島フィールドワーク (9/10-12 行程表)

日付	時間	実施内容
9/10	14:00	広島平和記念資料館にて集合
	14:00-	資料館見学後→広島市在住の平和博物館研究者・福島在行氏との意見交換
9/11	9:00～11:00	自由行動
	11:00-12:00	被爆伝承者・仁木美恵氏による講話 @平和記念資料館
	14:00-16:00	被爆者・切明千枝子氏に対するヒアリング
9/12	午前	チームに分かれて、フィールドワーク（平和記念資料館内の対話ノートの調査、来館者へのインタビュー、旧広島陸軍被服支廠、宮島など）
	17:00	現地解散

被爆者と被爆伝承者、専門家による講話



現地では、NHK広島、広島テレビ、中国新聞社の3社から取材を受け、ニュース番組でも取り上げられました。

◆NHK広島「広島NEWS WEB『被爆の実相をどう学ぶか』学生が被爆者から話聞く」

<https://www3.nhk.or.jp/hiroshima-news/20230911/4000023569.html>

◆広島テレビ「広テレ！News戦争の記憶と平和の継承...東京の大学生がヒロシマを学ぶ」

<https://news.yahoo.co.jp/articles/72489e6267490cd454f9d946626de5d309fbacfe>

3. 広島フィールドワークを通して

1. 現地で感じたこと→外国人が多い
2. 資料館で感じたこと→想像を超える原爆・戦争の悲惨さ
3. 被爆者の切明千枝子さんの講話を聴いて・・・
「物心ついた頃から戦争。私は、何が『平和』なのかがわからない時に生まれた。皆さんは戦争を知らないときに生まれたので、それは、大変幸せなことだと思う。その代わりに、それは大変危険なことでもある（解釈：放置して良い問題ではない）。『平和』というのは、待っていても降ってこない。自ら掴み取るもの」

➤原爆・戦争・平和は自分事であり一人ひとりが意識しなくてはならない。

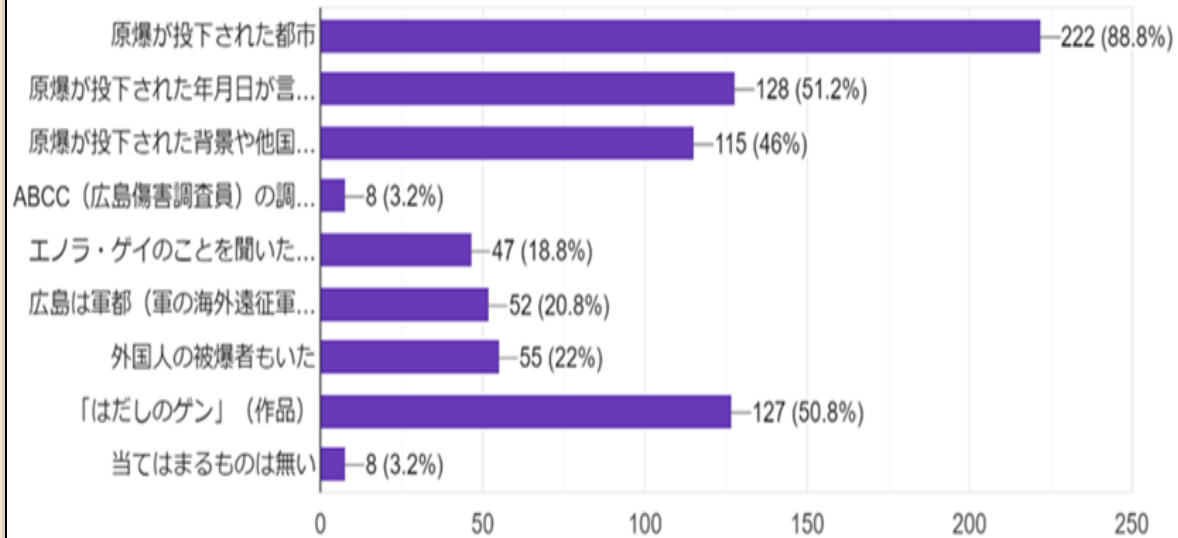
➤令和の時代を生きる私たちが以上のことから何を考えたか。

- ①戦争を知らない世代が増えるなか、凄惨な過去が忘れ去られないようにすること。
- ②自ら足を踏み入れて実際に「感じる」ことで、自分ができることが何かを自分事として考える「きっかけ」を与える仕掛けが、次世代の観光の要素には必要ではないか

4. アンケート調査と結果分析

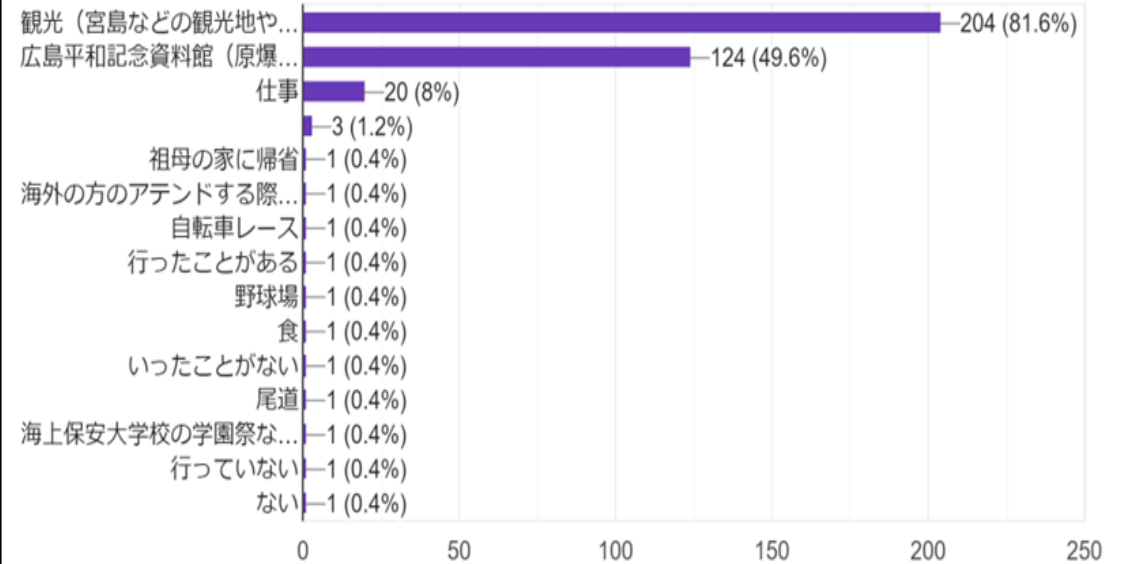
広島について知っていることの中から当てはまるものを全て選んでください。

250件の回答



広島を訪れる場合、何を目的として行きますか。

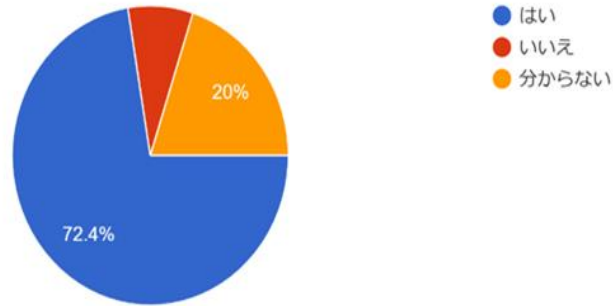
250件の回答



4. アンケート調査と結果分析

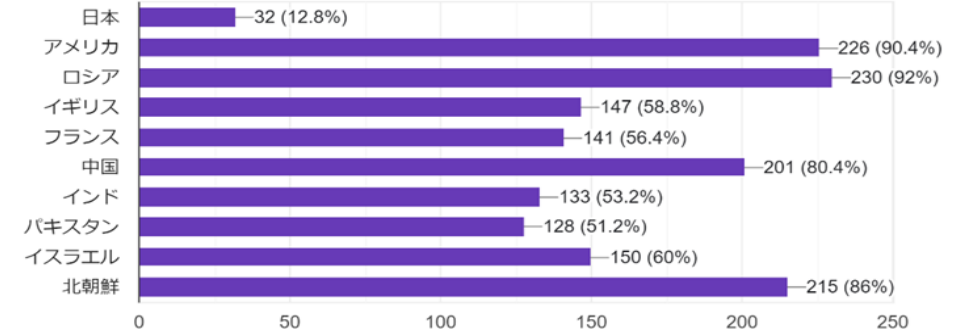
日本は唯一の戦争被爆国である。

250 件の回答



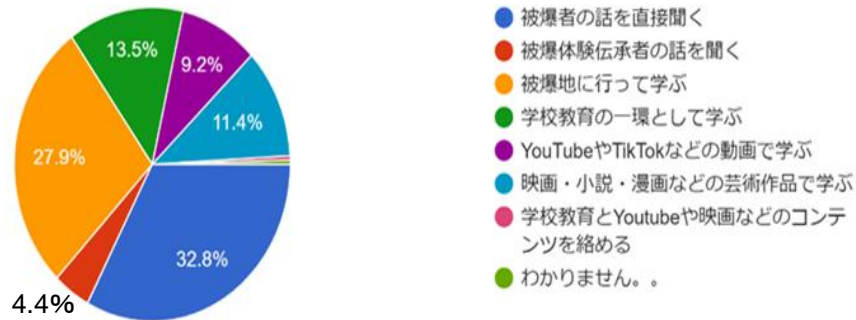
核保有国を全て選択してください。

250 件の回答



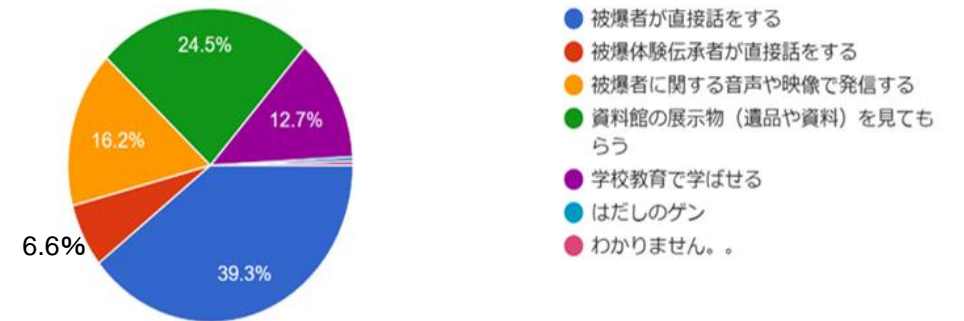
原爆の被害を学ぶ方法としてどれが一番有効だと思いますか。

229 件の回答



被爆体験を伝える方法としてどれが一番有効だと思いますか。

229 件の回答



5. 広島FWとアンケート調査からの主要な示唆

(1) 広島旅行に行って、感じたことは？

「無理やり学ばされる」 ≠ 「主体的に取り組む」

→すべて受け取る側の感受性次第。であれば、受動的な学習だけでなく、能動的な学習とを交差させることで、大学生である、自分たちの身に実際に起こった心情の変化と、きっと同じように感じる人がいるに違いない

(2) これから広島旅行に行く人に、何を伝える？

「生まれたときから平和」 ≠ 「生まれたときから戦争」

→平和記念資料館への訪問を、旅程のなかに必ず含めた旅のプランを提案する

(3) 自分の大切な人に、これだけは一番大切だと感じたことを伝えるとしたら？

「戦争・原爆は過去の出来事」 ≠ 「いま、世界中で起こっている紛争」

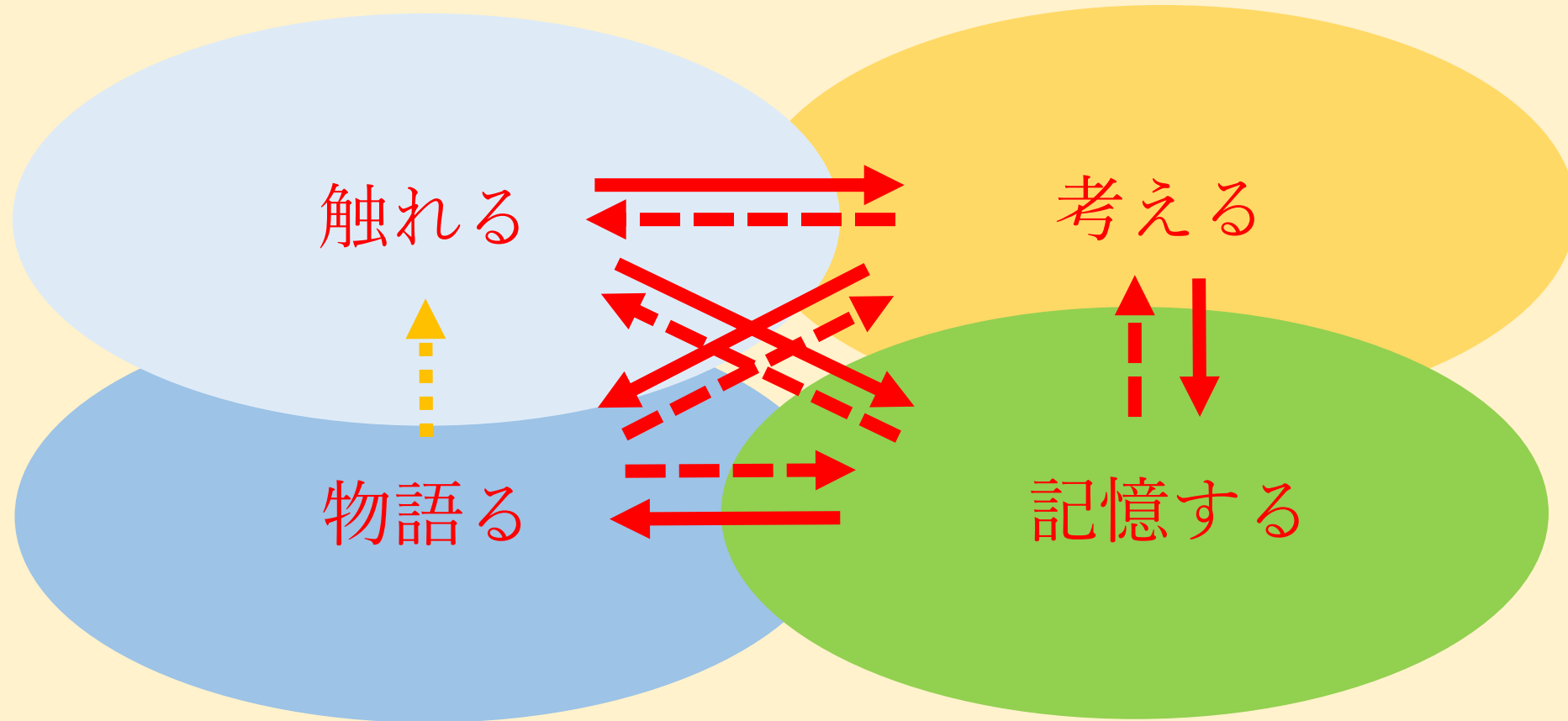
→平和継承活動、原爆ドーム、平和記念資料館が、今の時代とどのように繋がるのかを、若者目線で語られる

(4) アンケート調査 (250件、10-20代：81.2%、40代：10%、50代：6%、その他：2.8%)

回答者の88.8%は「広島は原爆が投下された都市」と理解しているものの、27.3%は「日本が唯一の戦争被爆国」であることを知らない。また、12.8%は「日本は核兵器保有国」としたほか、11.6%は「日本が核兵器を持つべき」と回答。

→日本の近現代史教育の欠陥が、若者の戦争や平和に対する正しい認識の欠如を招いたのではないかな
だからこそ、絶えず、過去の事実に触れ、考え、言語化し、世代間で語り合うことが重要なのではないかな

6. 新しい「広島観光」コンセプト



平和な日常とのギャップに触れ、自らの存在を揺さぶられながらも、今後、世界で何が起こっても人類にとって最も大切なものを考え、記憶し、物語り、また新たな知に触れる、それが私たちの考える「広島ピースツーリズム」

7. 参考文献（ウェブサイトを含む）

1. 寺島実郎『ひとはなぜ戦争をするのか』、岩波書店、2018年
2. 桐谷多恵子「広島観光における被爆者証言活動の意味：切明千枝子さんの就学旅行者へ対応経験を中心に」『多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要』、第15号、2023年)
3. 桐谷多恵子「誰の視点から復興を描くのかー被爆者が語る〈私たちの復興〉から広島の「復興」を捉え返す試みー」『日本災害復興学会論文集子』NO.15 (Special Issue) 2020年9月
4. 福島在行「平和博物館は何を目指してきたか」、蘭信三・小倉康嗣・今野日出晴編『なぜ戦争体験を継承するのか』みずき書林、2021年、248～267頁
5. 広島市来訪観光客アンケート調査結果
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/137645.pdf>
6. マイナビトラベル（学生旅行白書）
https://www.mynavi.jp/news/2018/06/post_17388.html
7. 広島市への海外からの賓客訪問実績 - 広島市公式ホームページ | 国際平和文化都市
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/49/10543.html>
8. 広島平和記念資料館 | 資料館について | 入館者数について
https://hpmmuseum.jp/modules/info/index.php?action=PageView&page_id=136
9. 平和文化 No.201_10 海外からの来訪者が発信するメッセージ
<https://www.pcf.city.hiroshima.jp/hpcf/heiwabunka/pcj201/Japanese/10J.html>
10. 原爆の悲惨さと平和への想いを世界に伝える、HIROSHIMAで生まれたピースツーリズム | やまところ.jp
<https://yamatogokoro.jp/report/32556/>
11. インバウンド人気観光スポットランキング3位「広島平和記念資料館」の人気の理由・インバウンド対策とは | 訪日ラボ
<https://honichi.com/ranking/touristattraction/hiroshimaheiwakinenshiryokan/>

12. <https://youtu.be/7DVJ2Ey6-UE>

13. 原爆資料館ドキュメンタリー

<https://www.youtube.com/watch?v=m9hOYpgleKE>

14. 「あれは77年前の私です」

<https://www.youtube.com/watch?v=lgrF5-2eNLA>

15. 平和公園に足を運ぶ外国人環境客に関する記事

<https://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=130883&fbclid=IwAR2dNjBAnviqZUDph11DqlX5IMx85vXiFg4Or0YBJHmjINk3VTOaGywddAk>

16. 平和記念資料館の入館者数

https://hpmmuseum.jp/modules/info/index.php?action=PageView&page_id=136&fbclid=IwAR3RMqzWDLVN5tERVrmFHnSB3RUTRTcUZGNUMPTPcO22Nov3civguxcS6G2E

17. 23年4月時点の原爆資料館の来館者数前年比大幅増

<https://news.yahoo.co.jp/articles/197f2481f71656f43574d71d9b027ca98a04b174?fbclid=IwAR29yaTDBbBz2mZ58WkRWmlhE-8GUwyar3HzkmJkXfrgO4HDmmibd2ZDfnQ>

18. 「政治マガジン」アメリカ人の8割以上「原爆についてもっと知りたい」

<https://www.nhk.or.jp/politics/articles/statement/42800.html>

19. 「分断された記憶：歴史教科書とアジア戦争」

<https://www.nippon.com/ja/in-depth/a00703/>

20. 公益財団法人 放射線影響研究所 <https://www.rerf.or.jp/glossary/abcc/>

21. 放射線による晩発的影響の過小評価 中川保雄

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jhsj/26/163/26_129/_pdf

22. 広島大学平和科学研究センター. 韓国人原爆被害者の研究の過程とその課題. 2012

file:///C:/Users/avanc/Downloads/hps_34_161.pdf

23. 碓井真史. 原爆に対する日米韓の意識：韓国「防弾少年団」原爆Tシャツの問題から 2018年11月10日

<https://news.yahoo.co.jp/byline/usuimafumi/20181110-00103609>

24. 橋場紀子. 韓国人被爆者の「語り」から見た「被爆体験」の特徴 2022

file:///C:/Users/avanc/Downloads/JGHSS8_205.pdf

25. 井上泰浩. 世界は「広島をどう報じたのか」 2006

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hiroshima-cu/file/1434/20140119135718/HJIS12-103.pdf>

26. 「日テレNEWS【アメリカ】広島・長崎「原爆投下」…アメリカの若者“意識”に変化が」

<https://www.youtube.com/watch?v=efUOyEjPZa0>

27. 「japan-guide.com」 <https://www.japan-guide.com/e/e2160.html>

28. 「JAL Guide to Japan」 <https://www.jal.co.jp/ar/en/guide-to-japan/>

29. 「おのナビ」 <https://www.ononavi.jp/>

30. Dive! Hiroshima 広島公式観光サイト 令和3[2021]年 広島県観光客数の動向

<https://dive-hiroshima.com/business/news/news-11473/>

31. 尾道市 令和4年（2022年）版 統計おのみち 観光<https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/2/18436.html>
32. 尾道観光協会 おのなび <https://www.ononavi.jp/>
33. 一休. com ここは押さえておきたい！尾道のおすすめ観光スポット25選<https://www.ikyuu.com/kankou/arealist8402/>
34. 米国ホロコースト記念博物館 ホームページ <https://www.ushmm.org/>
35. National Air and Space Museum (国立航空宇宙博物館) ホームページ <https://airandspace.si.edu/>
36. The National WWII Museum(国立第二次世界大戦博物館) ホームページ <https://www.nationalww2museum.org/>
37. 帝国戦争博物館 ホームページ <https://www.iwm.org.uk/>
38. - NHKすくすく子育てch「戦争のこと 子どもにどう伝える？」2023年6月10日放送
https://www.nhk.or.jp/sukusuku/articles/article_9206/
39. 古市憲寿「戦争博物館から戦争を考える」『既刊政策・経営研究』2014Vol.4
https://www.murc.jp/assets/img/pdf/quarterly_201404/pdf_005.pdf
40. 福西加代子「戦争・平和を展示する日本と韓国の博物館に関する比較研究」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasca/2011/0/2011_0_129/_pdf/-char/ja
41. 井出明『悲劇の世界遺産～ダークツーリズムから見た世界～』、文集新書、2021年

ご清聴、どうもありがとうございました。

3. 先行研究のレビュー（1）： ダークツーリズムと一般的な観光ツーリズム

ダークツーリズムの定義

- 1990年代にイギリスで生まれた新しい観光の概念
 - 「戦争や災害などの悲劇の記憶を巡る旅」を指すが、「被災地を旅すること」というのは誤解。
環境破壊、性的搾取、労働問題、病気・犯罪に関連した場所をはじめとして、人類のネガティブな記憶に関係する場所は、全て潜在的にダークツーリズムとなる。
- 結論として、将来に残す「普遍的価値」としては戦争で起こった絶対悪という教訓をも含む意味合いを含んでいる方が有益であることで、観光振興が目的ではない点をすみ分けて考えることで、一般的な観光ツーリズムではないことを理解しなければならない。

3. 先行研究のレビュー (2) 広島観光の歴史と「復興」について

➤ 広島観光の歴史

- ・ 戦前：目玉の一つとしての日清戦争の「聖跡」観光
- ・ 戦後：「軍都」から「平和都市」への転換

➤ 広島の「復興」

- ・ 研究者と被爆者がとらえる「復興」には乖離が生じている。
- ・ 都市計画史としての広島の「復興」が生活当事者（被爆者）の復興と重なるものではない。

⇒復興を議論するうえで被爆者の思想を踏まえた復興論が課題であるとまとめている。

3. 先行研究のレビュー (3)

平和博物館と戦争体験の継承について

➤ 平和博物館のミッション

① 平和学の平和理念の紹介・実践

② 戦争体験（とくに満州事変～日中戦争～太平洋戦争までの15年戦争）の継承の二つが主要課題

➤ 戦争体験の継承の課題の開始時期と悩み

・ 1960年代後半

→ 戦後生まれの教員が「歴史」や「国語」において戦争体験を語らねばならなくなったこと

→ 戦後日本において「平和教育」が理論化・組織化され再始動した時期（対象はこどもにまでに拡大する）

➤ 被爆者なき後の「継承」を課題として捉えた場合

平和博物館に足を踏み入れた非体験者が、そこから何を感じ、何を伝えることができるかを考えるきっかけとして場のみならず、アーカイブ機能自体が再生産され続ける必要がある。

4. 広島ピースツーリズムの現状

(1) 広島市の平和への取り組み

広島市の平和への取り組みにおける基本方針

- I 戦後広島市の復興
- II 核兵器廃絶を目指した取り組み
- III 平和意識の醸成
- IV 被爆体験の継承・伝承

III 平和意識の醸成

- ・ こども平和の集い
- ・ 中・高校生ピースクラブ
- ・ 若者による平和の誓いの集い
- ・ ヒロシマ・ピースフォーラム
- ・ 折り鶴再生紙によるピースメッセージ事業
- ・ 平和文化月間におけるイベントの開催

I 戦後広島市の復興

- ・ 広島平和記念都市建設法の施行
昭和24年（1949年）8月6日に、憲法第95条に基づく特別法により施行

→「恒久の平和を誠実に実現しようとする理想の象徴とし、広島市を平和記念都市として建設することを目的とする」（第1条）

→本法律の施行後に、広島市の都市づくりの方向性（平和記念都市としての役割）が決定

II 核兵器廃絶を目指した取り組み

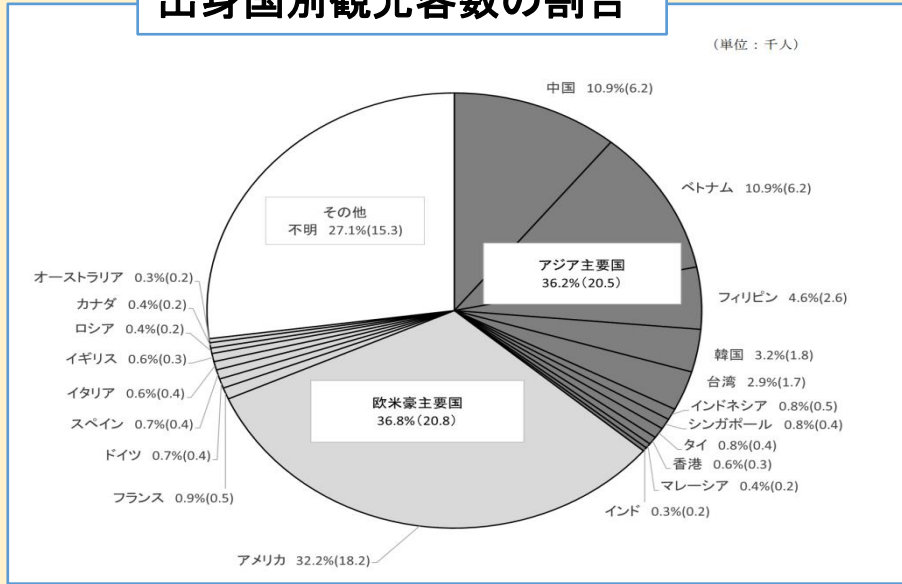
- ・ 国内外の世論の醸成
- ・ 平和主張会議の充実強化
- ・ 平和宣言の作成・発信

IV 被爆体験の継承・伝承

- ・ 被爆建物等保存・継承の推進
- ・ 広島平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化
- ・ 被爆資料の収集
- ・ 平和学習講座
- ・ ユースピースボランティア事業
- ・ 修学旅行生への被爆体験講話
- ・ 被爆体験伝承者による伝承講話
- ・ 国際平和拠点ひろしま構想の推進

4. 広島ピースツーリズムの現状 (2) 国内外訪問客数の推移

出身国別観光客数の割合



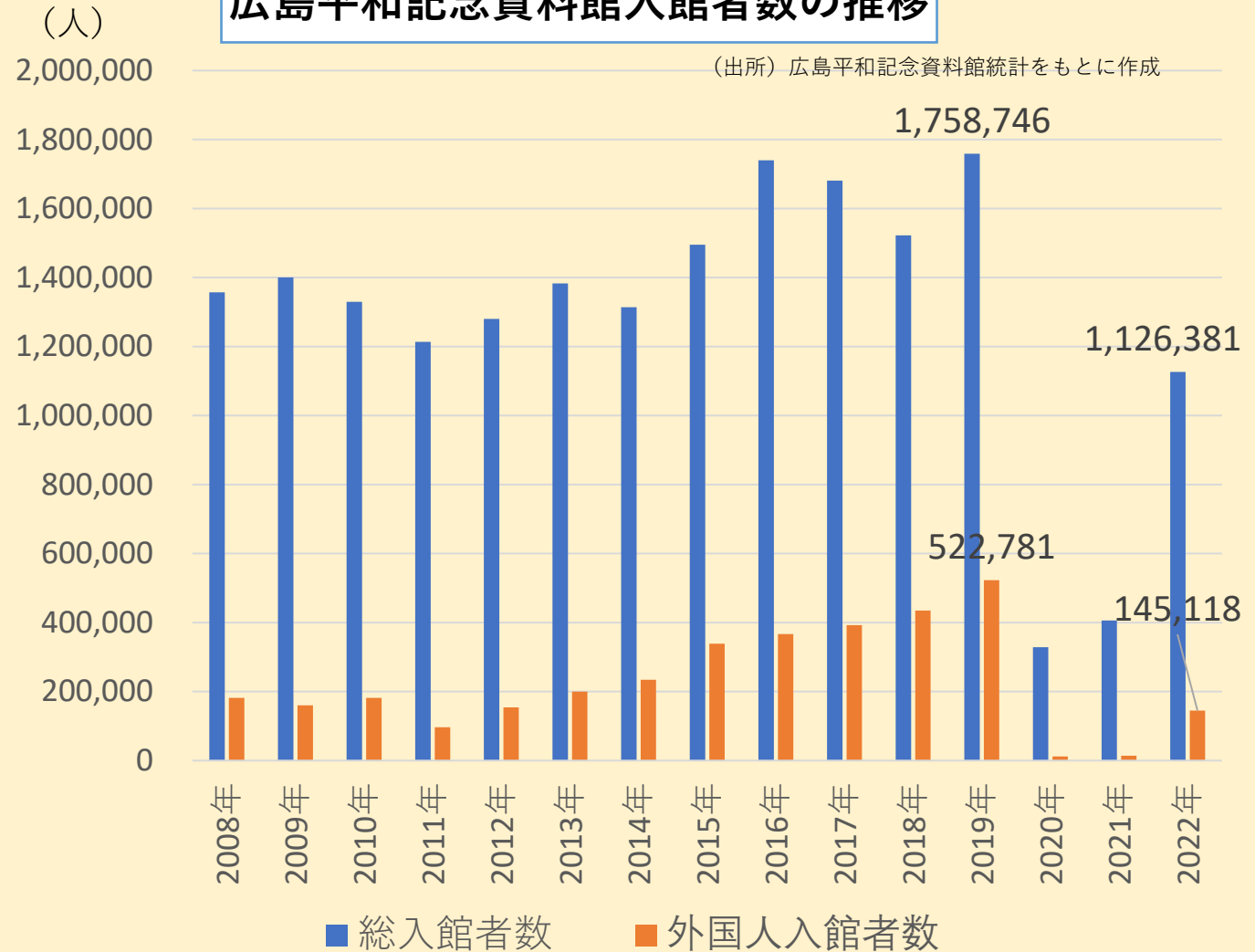
出所：広島県「令和3[2021]年広島県観光客数の動向」

広島市訪問客数の推移

区分	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	前年との比較	
						前年	増減率 (%)
入込観光客	1,336万2千人	1,427万4千人	854万9千人	755万3千人	925万人	169万7千人	22.5%
一般観光客	1,125万4千人	1,209万7千人	825万人	736万6千人	883万7千人	147万1千人	20.0%
修学旅行生等	32万6千人	33万人	9万2千人	16万人	32万3千人	16万3千人	101.9%
外国人観光客	178万2千人	184万7千人	20万7千人	2万7千人	9万人	6万3千人	233.3%

出所：経済観光局観光政策部「令和4年（2022年）広島市観光客数について」、2023年7月1日

広島平和記念資料館入館者数の推移



4. まとめ

- (1) 原爆の被害状況と戦後の広島復興、広島観光に関する考察を行うことで、現今の不安定な世界情勢における広島の立ち位置について新たな知見を得ることができ、研究を進める上で非常に有益であった。
- (2) 現地調査を通じて、メンバー一同改めて広島歴史やこれまでの広島の取り組みに関する様々な知見を得たほか、これまで抱えてきた問題意識を深めることができ、被爆者亡き後の広島観光に関する新しい糸口をつかむことができた。
- (3) 広島に関するアンケート調査（2023年11月6日～2023年11月22日、回答数250件）の結果から「戦争の記憶と平和の継承」を目的とした本研究にとって多くのヒントを得た。
- (4) 本発表は研究の中間報告にあたるため、今後は各種文献調査と現地調査等から得られた知見を踏まえ、Z世代の視点から平和を「記憶する」「伝える」「考える」きっかけになるような新しい「広島観光」に関する提案を行う。

海外の反応～韓国の場合

朝鮮半島出身者の被爆状況

被爆地	被爆者数	死亡者数	生存者数	韓国へ帰国者数	北朝鮮へ帰国者数
広島	50,000	30,000	20,000	15,000	5,000
長崎	20,000	10,000	10,000	8,000	2,000
計	70,000	40,000	30,000	23,000	7,000

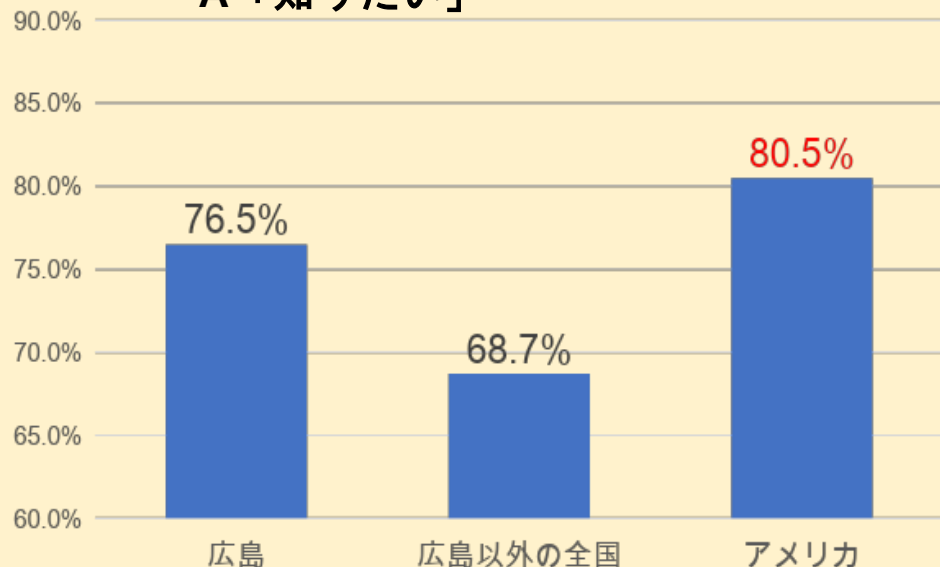
(出所) 崔鳳泰「反核法律家協会セミナー報告文 韓国人原爆被害者の権利闘争の現況と課題」、日本反核法律家協会公式ウェブサイト<https://www.hankaku-j.org/event/220314/004.html> (23年7月25日閲覧)

広島への原爆投下から60年後の韓国の「東亜日報」の報道。

- ・日本が被爆国という被害者であることを強調。
- ・日本は戦時中、韓国に対して行った侵略行為を直視せず、忘れようとしている。
- ・1945年8月の原爆投下当時、広島・長崎の市に十数万人程度の韓国人が暮らしていた。
→広島と長崎合わせて約7万人が被害に遭い、2万3千人が朝鮮半島へ帰国。
- ・歴史的事実の評価も、受けてきた教育も、マスコミ報道の内容も違う。
→原爆に対する意識も違う。互いに事実を知り、考えていくことが重要。

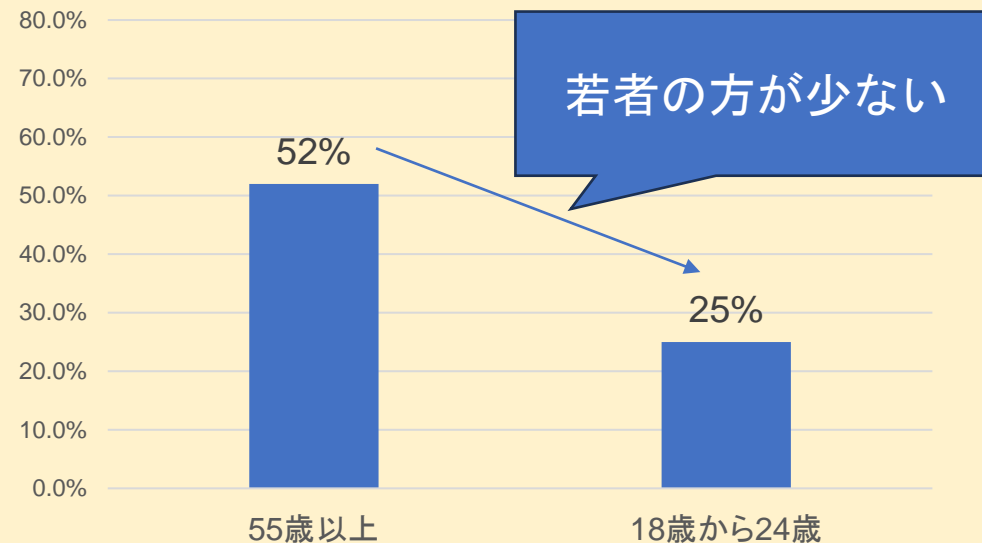
海外の反応～米国の場合

Q「原爆についてもっと知りたいと思うか」
A「知りたい」



(2020年にNHK広島放送が「平和に関する意識調査」として18歳から34歳を対象にインターネットでアンケートを行ったもの)

Q「原爆投下は正しい判断だったか」
A「正しかった」



(調査会社「YouGov」が2020年8月6日から7日に行った世論調査)

原爆投下によって戦争を終えることができたという認識



自国が原爆を投下した結果、何が起きたのか、本当のことが知りたいなど原爆投下に対する認識の変化がみられる

→ 米国の教科書は原爆の決定をめぐる賛成・反対の立場を学生に伝えようとしている

6. 世界の博物館調査：スミソニアン国立航空宇宙博物館

荻野博司先生よりご提供、
2015年8月撮影

Boeing B-29 Superfortress Enola Gay

106

Boeing's B-29 Superfortress was the most sophisticated propeller-driven bomber of World War II, and the first bomber to house its crew in pressurized compartments. Although designed to fight in the European theater, the B-29 found its niche on the other side of the globe. In the Pacific, B-29s delivered a variety of aerial weapons: conventional bombs, incendiary bombs, mines, and two nuclear weapons.

On August 6, 1945, this Martin-built B-29-45-MO dropped the first atomic weapon used in combat on Hiroshima, Japan. Three days later, *Bockscar* (on display at the U.S. Air Force Museum near Dayton, Ohio) dropped a second atomic bomb on Nagasaki, Japan. *Enola Gay* flew as the advance weather reconnaissance aircraft that day. A third B-29, *The Great Artiste*, flew as an observation aircraft on both missions.

Transferred from the U.S. Air Force

Funding in support of the completion of the restoration of the Enola Gay provided by The Alan L. Gray Family



Wingspan:	43 m (141 ft 3 in)
Length:	30.2 m (99 ft)
Height:	9 m (27 ft 9 in)
Weight, empty:	32,580 kg (71,826 lb)
Weight, gross:	63,504 kg (140,000 lb)
Top speed:	546 km/h (339 mph)
Engines:	4 Wright R-3350-57 Cyclone turbo-supercharged radials, 2,200 hp
Crew:	12 (Hiroshima mission)
Armament:	two .50 caliber machine guns
Ordnance:	"Little Boy" atomic bomb
Manufacturer:	Martin Co., Omaha, Neb., 1945

◆ 説明文（2015年当時）：被害状況（死傷者）について一切触れていない。

◆ 国立航空宇宙博物館は、2025年に原爆投下後の広島と長崎の街の写真のほか、**被爆者の遺品なども展示する計画**。また、科学者による原爆投下への反対など、当時のアメリカ国内の原爆をめぐる議論についても紹介するとみられる（日テレNEWS 2023/8/8付）。

目標	取組	課題	今後の解決策
地域の特色を生かした魅力ある観光地づくりによる新たな経済成長	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 県内周遊のモデルコース（原爆ドーム・宮島～呉、瀬戸内ひろしま全域）への誘客推進 ▼ 民間事業者との連携による事業推進 	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 2つの世界遺産に続く集客力の高い観光資源が育っていない ▼ 都市型観光の比率が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 広島ならではの歴史・文化・自然を「テーマ」にした観光の推進 ▼ 「ひろしま」「瀬戸内」の2つのブランド資源を生かした観光振興による県内経済の成長
観光客数の増加・観光消費単価の上昇	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 県内周遊 ▼ 広域周遊 	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 民間事業者が中心となった観光プロダクトの取組が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 国内観光客の認知度を向上させるためのブランディング ▼ 民間企業のプロダクト開発支援
国内外観光客の受け入れ体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 道の駅・海の駅の整備 ▼ 観光案内の多言語対応 ▼ 県内おもてなし人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 国内観光客の伸び悩み ▼ 国外観光客の県内での宿泊、周遊滞在にはつながっていない 	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 年間を通じた誘客につなげるための観光プロダクトの開発 ▼ 観光人材の育成
国際観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 海外に向けた情報発信 ▼ 外国人を魅了する観光地づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 欧米に比べアジアからの来訪者が少ない ▼ 多様なニーズに応えるためのマーケティング力不足 	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 特定国（欧米・アジア）をターゲットとしたプロモーションの実施 ▼ 外国人観光客がもとめる旅行商品の提供

出所：広島県商工労働局観光課『観光立県推進基本計画』をもとに筆者作成